

平成 26 年 1 月から平成 29 年 12 月までに食道癌の内視鏡治療を受けられた患者様へ

表在性食道扁平上皮癌における固有食道腺導管と導管内進展、浸潤性胞巣の鑑別についての研究

1. 研究の対象

平成 16 年 1 月～平成 17 年 12 月までに東京都健康長寿医療センターで表在性食道扁平上皮癌に対して内視鏡的治療を受けた方を対象としています。

2. 研究目的・研究方法

食道癌は内視鏡的に治療することが可能な浅い癌でも、粘膜筋板や粘膜下層という組織まで癌の浸潤があると、後からリンパ節に再発が生じる危険性が 1-2 割程度見られます。

食道には食道腺という粘膜を保護するための腺があり、粘膜表面から粘膜下まで管が繋がっています。癌がこの腺の上皮を置き換えるように浸潤するとすぐに粘膜筋板や粘膜下層の深さまで癌が進展してしまうのですが、腺の構造を破壊してその周りに浸潤していなければリンパ節転移は起きないといわれています。

治療により摘出された組織は病理組織標本を作製し、浸潤の深さやリンパ管・血管に癌が入り込んでいないか検査をします。この時、この腺の中に癌がとどまっているのか、癌が浸潤しているのか、鑑別の困難なことがあります。これらを鑑別する方法を探るため、様々な標本の染色法を試み、鑑別に役立つ染色法やその所見を検討します。

研究期間は倫理審査委員会の承認後から 3 年後（平成 33 年の 3 月までとなります）

3. 研究に用いる資料・情報の種類

研究に用いる資料は平成 16 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日に東京都健康長寿医療センターにおいて内視鏡的に切除された食道の検体で、必要な病理診断は終了後にセンター病理診断科において保管されているホルマリン固定パラフィンブロックとなった検体を用います。研究資料については、研究用標本作製時より研究番号のみで管理し、個人情報とは完全に分離した形で扱います。保存する情報は、年齢、性別、腫瘍深達度（どの深さまで腫瘍が浸潤しているか）についての情報のみで、個人を直接特定で

きるような個人情報については収集しません。研究結果の発表を行う際にも個人情報は含まれないようにして行いますので、対象となった患者様の個人情報が漏れる心配はありません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象外といたしますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への検体利用を拒否する場合の連絡先

東京都健康長寿医療センター研究所

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2

電話 03-3964-3241 FAX 03-3579-4776

研究責任者 老年病理学研究チーム 相田 順子